

第2章 計画の目指す姿

担い手の減少、耕作放棄地や鳥獣被害の増加など、農業・農村を取り巻く環境がますます厳しくなっていく中で、将来にわたり農業・農村を持続的に発展させていくためには、地域力・収量・品質の向上や経営の規模拡大・多角化により所得向上を図るなど「儲かる農業」を確立し、それを実践する担い手を見て新たな担い手が続いていくような好循環を生み出していく必要があります。

特に所得向上については、高い収益が見込まれる園芸農業の推進が重要であり、生産者をはじめとして関係者が一丸となって「さが園芸生産 888 億円推進運動」に取り組む必要があります。具体的には、生産部会等が作成した「園芸産地計画」や根域制限栽培^(※)団地構想等の取り組みがあります。

また、農業分野のデジタル技術の活用に向けた取り組みとして、近年注目されている AI や IoT を活用するなどして、大幅な省力化技術や飛躍的な収量向上技術の研究開発が進められており、今後はこのようなスマート農業の推進が重要となってきます。

中山間地域では、少子高齢化による担い手の減少や耕作放棄地の増加などが平坦地域よりも進んでいることから、集落や産地の維持・発展に向けた話し合いを促進することにより、課題の抽出やビジョンの作成・実現に向けて、関係機関と連携しながら着実に取組を推進していく必要があります。

このようなことから、今後の農業・農村の振興に当たっては、専業農家の方はもちろん、それ以外の中小・家族経営の農家の方や兼業農家（半農半 X^(※)）の方などをはじめ、市民の皆さん（消費者）や、農業団体などと一体となって取り組み、

「良好な農業生産基盤が整備され、農業経営者が効率性や生産性の高い農業を営むことができるまちを目指します。また、農業経営の持続性の確保と自立的で発展的な好循環の実現を目指します。」



※根域制限栽培

防根シートで隔離された培地に樹を植栽することで、養水分吸収を適正範囲に制御しながら品質を向上させる栽培方法のこと。

※半農半 X

農業と他の仕事（“X”）を組み合わせた働き方のこと。